

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18592398

研究課題名（和文） 出生前診断における遺伝専門看護師の実践的機能の構築とネットワーク

研究課題名（英文） Construction of network system and practicing function of genetic nurse in amniocentesis

研究代表者

横山 寛子 (YOKOYAMA HIROKO)

東海大学・健康科学部看護学科・教授

研究者番号：30143150

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：出生前診断・遺伝看護・遺伝医療・遺伝専門看護職・羊水検査

1. 研究計画の概要

我々は、平成 10 年から遺伝医療における遺伝専門看護職の機能と役割の構築に向けた一連の研究を科学研究費の助成を受けて行っている。今回は、その中で「出生前診断」にスポットをあて、「遺伝専門看護職」の実践的機能を導き出すことを目的として、以下の方法で研究を展開している。

(1) 出生前診断に関する認識の把握

- ① 一般医療機関における出生前診断に関する医療者の意識調査
- ② 既婚の女性を対象とした出生前診断に関する意識調査
- ③ 未婚の男女を対象とした出生前診断に関する意識調査

(2) 出生前診断における遺伝専門看護職の機能・役割に関する基礎的資料の把握

- ① 文献による出生前診断における看護支援の現状把握
- ② 我が国の遺伝専門部門における看護職の出生前診断に関する支援方法の現状把握
- ③ 出生前診断における妊婦の心理的变化の把握

2. 研究の進捗状況

(1) -① 遺伝専門看護職の果たす役割を検討するためには、一般産科医療職の認識を理解することが必要と考え、「出生前診断に関する認識調査」を実施した。その結果は、一般看護職は、妊婦や夫の自己決定権を尊重しているものの、障害児の養育についての困難さを強く認識していた。また、

医師を含めた医療職の 6 割が、出生前診断は、「妊娠に伴う不安の軽減に出生前診断は寄与している」といった認識を示していたことから、出生前診断受検について、安易な認識を持ち合わせていることが確認された。

(2) -①

文献による支援の現状把握は、近年遺伝相談部門が急増したことから、看護支援に関する文献も多く収集されたが、一般看護職における出生前診断への関与についての資料は少なかった。

(2) -②

遺伝相談部門を開設している 130 の施設に郵送にて、医師・看護職・心理職等に、出生前診断の看護職の役割について、その現状と今後の期待について、調査を実施した。相談部門に専任の看護職を有している施設は、4 割弱で、専属であった者は 1 割に満たなかった。出生前診断の看護職の役割は、施設によりかなりの幅があったが、事前面接および家系図の作成さらに検査時の援助が中心的役割であったが、医師が今後期待する役割として上げていたものは、結果告知後の事後相談やフォローアップであった。遺伝相談部門の開設は、まだ年月が浅く、看護職が配属されている施設が少ないこと、あるいは専属の看護師を配属しているところが少ない現状から、遺伝専門看護師の機能を十分に発揮できていない現状が浮き彫りとなった。

(2) -③

遺伝相談外来で出生前診断の相談を平成 19 年より、本学遺伝診療部で実践している。遺伝専門看護師の役割としては、カ

ウンセリングの前・中・後の全てに参入し、クライアントである妊婦もしくはそのパートナー・家族が、出生前診断について自己決定できるような支援を行っているが、クライアントの承諾を得て研究的な対応を含めた関わりには、現在は至っていない。

3. 現在までの達成度

区分③

理由：前述にあるように、(1)－①、(2)－①・②は概ね進展しているが、(1)－②・③の実施には至っていない。

(1)－③については、今年度中に実施予定であるが、②については、対象者のリクルートを検討中である。

また、(2)－③については、研究的位置づけで実施するための準備を行う。

4. 今後の研究の推進方策

(1)－③については、本学の一般大学生を対象に、調査を実施する予定である。

(1)－②対象のリクルートを考えると、量的に分析する方法から、面接による質的分析に変更することを検討している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 件)

[学会発表] (計 3件)

1. 横山 寛子：神奈川県内の医療職による出生前診断の情報提供の方法と認識. 日本遺伝カウンセリング学会. 2007. 5. 東京医科大学病院

2. 和田 恵子：出生前診断の関する看護職への認識調査. 日本母性衛生学会. 2007. 10. つくば国際会議場.

3. 横山 寛子：出生前診断で 18 トリソミと診断され、妊娠継続を決定した家族への支援を振り返って. 日本遺伝看護学会. 2008. 9. 聖路加看護大学

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

○取得状況 (計 件)

[その他]